

**ふじのくに地域・大学コンソーシアム
第2期中期計画**

(2019-2023)

平成31年3月

目 次

第Ⅰ章	ふじのくに地域・大学コンソーシアムの設立.....	1
第Ⅱ章	これまでの事業実績.....	3
1	教育連携	3
	(1) 単位互換授業	
	(2) 高大連携推進事業	
2	共同研究	6
	(1) 共同研究助成事業	
	(2) ふじのくに学共同研究検討事業	
3	地域貢献	7
	(1) 共同公開講座・大学連携講座	
	(2) ゼミ学生等地域貢献推進事業	
4	国際交流	8
	(1) 留学生交流	
	(2) 留学フェア	
	(3) グローバル人材育成事業	
5	学生支援	10
	(1) 留学生就職支援事業	
	(2) インターンシップ推進事業)※静岡大学 COC+事業	
6	機関交流	13
	(1) 合同FD・SD研修会	
	(2) 広報事業	
7	情報発信	14
	(1) 地域研究成果発信事業	
	(2) 広報事業	
第Ⅲ章	コンソーシアムが果たすべき役割.....	16
第Ⅳ章	静岡県的高等教育機関を取り巻く環境.....	17
1	静岡県の状況と課題	
2	国の高等教育行政の動向	
第Ⅴ章	各構成教育機関のコンソーシアムに対する期待と意見.....	20
第Ⅵ章	今後の取組方針.....	27

第 I 章 ふじのくに地域・大学コンソーシアムの設立

1 設立日 平成 26 年 3 月 27 日

2 発起人 大学ネットワーク静岡会員（静岡県内 23 の高等教育機関・静岡県）

3 設立趣意

現在、我が国は、少子高齢化の進行や急速なグローバル化の進展など、社会経済の急激な変化に直面しております。

とりわけ、18 歳人口の減少や地域経済の衰退は、大学の経営基盤に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

また、大学に対して、地域の知の拠点としての役割も求められており、大学が核となり、地域をリードしていくことに大きな期待が寄せられる一方、地域に対しても、学生を育成・支援する役割が期待されています。

こうした、地域の様々なニーズや期待に十分応えていくためには、大学間連携による教育研究力の向上を図りつつ、大学と地域との連携を強化して、大学の持つ知的資源を積極的、かつ効果的に地域へ還元していくことが重要となっています。

これらの状況を踏まえ、本県の大学間連携組織である「大学ネットワーク静岡」を発展的に改組し、本県の高等教育の一層の向上と地域社会の発展への寄与を目的とする「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を設立することといたしました。

今後、大学間の連携をこれまで以上に深めつつ、大学と地域との連携・協働を促進してまいります。

また、様々な取組において、学生の自主的な参加を促し、異なる大学の学生間や地域の方々との積極的な交流を働きかけて、地域の賑わいを創出しつつ、地域と大学とが一体となって、魅力ある静岡県づくりを目指してまいります。

4 設立時の構成員（平成 26 年度会員）

正会員：静岡県内 23 高等教育機関、静岡県、12 市町

準会員：1 団体

5 設立に至る経緯

平成 15 年 12 月 6 日 大学間連携推進組織「大学ネットワーク静岡」設立
(目的) お互いの自主性を尊重しつつ、切磋琢磨し、個々の大学の魅力をさらに高めるとともに、協力して地域全体の高等教育機能を向上させることにより、優れた人材が集積する知的環境を実現し、もって地域社会の発展に貢献することを目的とする。
(構成員) 県内 23 大学

平成 23 年 5 月 16 日 大学ネットワーク静岡内に「大学コンソーシアム設立検討会議」を設置

平成 23 年 1 月 31 日に開催された大学ネットワーク静岡代表者会議において、静岡県から提案のあった「大学連携に向けた取組(案)」を受け、同年 3 月 15 日の代表者会議で設置を決定

(検討事項) 他県事例の把握

会員意向調査に基づく共同事業の提案

組織・事務局体制、会費

基本構想案の策定

平成 23 年 10 月 「大学コンソーシアム設立に向けた基本構想」策定

平成 24 年 3 月 16 日 大学コンソーシアム設立準備会議の設置

「大学コンソーシアム設立に向けた基本構想」に基づき、次の事項を協議

- ・コンソーシアムの組織及び運営方法
- ・交流・連携事業
- ・財政基盤
- ・将来構想

平成 25 年 3 月 26 日 平成 24 年度第 2 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、社団法人として大学コンソーシアム設立を決定

平成 25 年 6 月 11 日 平成 25 年度第 1 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、法人名を「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」とすることを決定

平成 26 年 3 月 27 日 平成 25 年度第 3 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの名称変更(地位の継承)を決定

第Ⅱ章 これまでの事業実績

1 教育連携

(1) 単位互換授業

ア 目的

大学間相互の連携と交流を促進し、教育内容の充実に資するとともに、学生に対して多様な学習機会を提供する。

イ 実績

(ア) オリジナル

静岡県の特性を学ぶ授業として、平成 26～27 年度に設置したふじのくに学検討委員会が平成 28 年 3 月に取りまとめた「静岡県の新たな地域学「ふじのくに学」の創出に向けた基本的方向性」に基づいて、座学、フィールドワーク、グループワーク等を取り入れた多彩なカリキュラムで実施してきた。

平成 26 年度は、4 大学の相互協定でスタートし、富士山に係る授業 1 科目であったが、平成 30 年度には、協定校 8 大学等、科目も 3 科目と増加した。

年度	協定校数	科 目	受入大学	参加大学	学生数
H26	4	富士山の自然と社会（2単位）	静岡大学	3	45
H27	5	富士山の自然と社会（2単位）	静岡大学	5	45
H28	7	富士山の自然と社会（2単位）	静岡大学	5	39
		ふじのくに学（お茶）	静岡県立大学	3	39
H29	8	富士山の自然と社会（2単位）	静岡大学	3	38
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	5	39
H30	8	富士山の自然と社会（2単位）	静岡大学	2	38
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	3	39
		ふじのくに学（観光学）（1単位）	静岡県立大学	4	20

(イ) 連携型

平成 29 年度からは、単位互換制度を有効に活用し、協定校の学生の学びの幅を広げるために、連携型の単位互換授業を実施した。

年度	科 目	受入大学	参加大学	学生数
H29	ふじのくに学（世界農業遺産）（1単位）	静岡大学	3	41
	ふじのくに学（雑草学）（1単位）	静岡大学	3	22
H30	ふじのくに学（世界農業遺産）（1単位）	静岡大学	3	21

年度	科 目	受入大学	参加大学	学生数
	ふじのくに学（雑草学）（1単位）	静岡大学	3	33
	ふじのくに学（紅茶）（1単位）	静岡大学	4	38
	ふじのくに学（静岡県の農林業）（2単位）	静岡大学	2	33
	ふじのくに学（植物・微生物間共生学）（1単位）	静岡大学	2	10

*** 西部地域連携事業（共同授業事業）**

7大学を協定校として、共同授業を実施した。なお、毎年、8回の講座のうち1回を、市民向けの特別公開講座として開放した。

年度	テーマ	期 間	会 場	学生数
H26	「人間と環境」地域発の新しい価値観の創造	10月4日～12月6日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	125
H27	人間と環境－ネット社会と生活－	10月3日～12月5日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	92
H28	人間と環境－心身の健康－	10月1日～12月3日のうち8土曜日	静岡大学 浜松キャンパス	96
H29	人間と環境－人間・環境・倫理－ 今求められる倫理－	10月7日～12月23日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	131
H30	「人間と環境」～『人にやさしい』環境づくり、『環境にやさしい』人づくり～	10月6日～12月8日のうち8土曜日	静岡大学 浜松キャンパス	83

(2) 高大連携推進事業

県内の高等学校と大学の連携を深めるため、大学教員を高等学校に派遣し、出張講座を行うとともに、平成29年度からは、高校生が県内の大学を知り、進学の意味などを考える公開イベントを開催した。

ア 出張講座の実績

年度	高校数	講座数	受講者数	主なテーマ
H26	10	12	3,214	・静岡のモノづくり ・防災 ・静岡で学ぶ・働く・暮らす
H27	9	12	2,941	・静岡で働く・暮らす ・ジオパーク ・地域産業 ・防災 ・データと情報 ・静岡の歴史（戦国時代）
H28	14	16	3,394	・大学での学び ・防災（地震、津波、外国人対応 など） ・静岡の歴史（戦国時代） ・企業経営
H29	14	18	1,514	・大学での学び ・防災（地震、津波、外国人対応 など）

年度	高校数	講座数	受講者数	主なテーマ
				<ul style="list-style-type: none"> ・静岡の魅力と課題 ・宇宙 ・静岡から世界へ ・世界遺産と外国人
H30	17	19	1,761	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡地域における伝統文化と文化継承 ・伊豆のジオパーク ・静岡学 ・静岡から世界へ・宇宙へ・未来へ ・静岡で学ぶ 静岡で働く ・佐鳴湖の海水・淡水プランクトン

イ 合同オープンカレッジの実績

年度	イベント名	運営	回数	概要	参加者数
H29	大学での学び体験イベント	(企画)コンソーシアム (実施)ふじのくに留学生親善大使、静岡学生NGO あおい	1	高校生が数年後のなりたい自分をイメージするきっかけを作るため、大学生とのワークショップを通して、高校までの学びとの違いを体験する。	34
	将来を考えるワークショップ	(企画・実施)NPO 法人しずおか共育ネット	1	高校生が卒業後の将来について具体的に考える機会として、大学生等の体験談を聞き、大学生とともに「働くこと」やキャリアについて考える。	79
H30	謎解きゲーム in「大学フェア2018」	(企画)コンソーシアム (実施)NPO 法人静岡時代	1	高校生が、静岡県内の大学に興味を持つきっかけを作るため、県内大学に関する謎解きゲーム。	51
	大学生と一緒に考えるワークショップ in「進学相談会」	(企画・実施)リンクビジネスカレッジ、Beyond School、Buddy Program	4	高校生が、進学意欲を高めたり、大学生活やその先のキャリアについて考えたりする機会にするため、大学生と将来について考えるワークショップ。	54

2 共同研究

(1) 共同研究助成事業

県内大学の学術研究への助成を通じて、本県の大学と大学及び大学と地域の連携を促進し、大学の学術研究の向上及び地域貢献の推進を図るため、県内大学の研究者又は研究グループが行う研究に対して助成を行った。

年度	応募数	採択数	備考
H26	21	4	実験系：1件、非実験系：3件
H27	31	6	実験系：2件、非実験系：4件
H28	16	6	ふじのくに学：2件、地域課題：4件
H29	19	7	ふじのくに学：1件、地域課題：6件
H30	22	7	ふじのくに学：4件、地域課題：3件

(2) ふじのくに学共同研究検討事業（H27.1～28.3）

地域の活性化に寄与するため、静岡県の特異性・優位性を明らかにする「ふじのくに学」として、新たな地域学の創出及び体系化の取組の検討を行う「ふじのくに学」共同研究検討委員会を設置した。

ア 検討委員会

- ・検討委員：4人（企画運営委員からの推薦）
- ・任期：平成27年1月～平成28年3月
- ・検討事項：ふじのくに学の素材となる本県ならではのテーマ選定
本県の特異性・優位性を明らかにするための比較研究の方法
研究成果の活用及び発信の方法
- ・検討経過

開催回	日程	内容
第1回	H27年1月27日	研究の方向性について 検討組織について
第2回	H27年2月24日	取組の方向性 個別研究テーマの検討
第3回	H27年3月20日	ふじのくに学創設に向けた取組
第4回	H27年12月2日	ふじのくに学創設に向けた取組のまとめ
第5回	H28年3月1日	ふじのくに学創設に向けた基本的方向性について

検討結果は、H28年度第1回企画運営委員会及び理事会で報告

イ 公開講座「ふじのくに学(お茶)」の開催

趣旨：ふじのくに学（お茶）の開設準備にあたり、一般（学生可）対象の公開講座を開催する。

概要

日程	会場	内容	参加者数
H27年2月22日	静岡市産学交流センター	静岡茶業の形成(座学) 世界の茶・日本の茶(座学)	33
H27年2月23日	藤枝市茶商工業組合	茶手揉演習(実習) 茶の入れ方の理論と演習(実習)	31
H27年2月24日	静岡市産学交流センター	茶の機能性成分と最新情報(座学) 機能性食品としての茶の役割(座学)	33

※参加実人員：41人

3 地域貢献

(1) 共同公開講座・大学連携講座

複数の大学が共同で、静岡県の魅力発信、地域振興に資する内容等をテーマに、大学が持つ知識等を市民に広く還元した。

平成 26・27 年度は県委託事業として、28 年度からは各大学からの提案を受け、大学への委託事業として実施した。

年度	講座名	企画	回数	場所	参加者数
H26	「人間と環境」 地域発の新しい価値観の創造	西部地域連携事業実施委員会	8	浜松市	115
	学生の手で地域資源を探して・活かそう！	常葉大学、静岡大学、静岡市	3	静岡市	556
	静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興	静岡文化芸術大学、常葉大学、浜松市、企業等	1	浜松市（静岡文化芸術大学）	90
	今私たちができる「地域」づくり	静岡県立大学、学生団体静岡 2.0	2	沼津市・牧之原市	90
H27	地方創生市民シンポジウム	静岡大学	2	浜松市	426
	クオリティ・オブ・ライフ～地方都市で暮らす魅力	常葉大学	3	静岡市	180
	富士山が与える駿河湾の豊かさ-地域連携型洋上セミナー	東海大学海洋学部	1	富士市	58
	よく噛んで、美味しく食べて、元気なからだ-咀嚼が創る健康長寿-	静岡県立大学	3	静岡市	52
	第4回静岡 2.0 フォーラム-今、私たちができる「地域」づくり-	静岡県立大学	2	静岡市・島田市	80
	連続講座「いのちを考える」	放送大学静岡学習センター	3	静岡市	84
	多文化共生都市をデザインする	浜松学院大学	1	浜松市	64
H28	双方向型コミュニケーションによる協働-地域課題の解決に向けたユースの力-	常葉大学・静岡大学・静岡文化芸術大学	3	藤枝市・静岡市	190
	静岡建築茶会	静岡理工科大学・静岡文化芸術大学	3	浜松市・掛川市・静岡市	118
	第5回静岡 2.0 フォーラム-今、私たちができる「地域」づくり-	静岡県立大学・静岡大学	2	沼津市・静岡市	36
H29	少子化・グローバル化による社会の変容と地域間ネットワーク・デザイン	常葉大学・静岡文化芸術大学・静岡産業大学	3	静岡市・掛川市	120
	地域防災・減災と大学	静岡文化芸術大学・浜松医科大学	3	浜松市	141

年度	講座名	企画	回数	場所	参加者数
	静岡建築茶会 2017 ～Shizuoka Architectural Tea Break 2017	静岡理工科大学・ 静岡文化芸術大 学	2	浜松市・富士市	32
H30	静岡建築茶会 2018 建築環 境デザインを科学する！～ 光・温熱・気流とかたちの関 係～	静岡理工科大学・ 静岡文化芸術大 学	3	袋井市・浜松市・ 静岡市	105
	静岡で知っておきたい地震 と火山と防災	静岡県立大学・東 海大学・静岡大学	4	裾野市・静岡市・ 下田市	530

(2) ゼミ学生等地域貢献推進事業

自治体から提示された地域課題のための研究などを行う県内大学のゼミ及び県内学生により組織された団体を対象に、助成を行った。

年度	応募数	採択数	備考
H26	32	20	自治体からの指定課題：7件、自由課題：13件
H27	40	19	自治体からの指定課題：15件、自由課題：4件
H28	21	21	自治体からの指定課題：9件、自由課題：12件
H29	31	25	自治体からの指定課題：16件、自由課題：9件
H30	46	26	自治体からの指定課題：24件、自由課題：2件

4 国際交流

(1) 留学生交流

事業平成27年度から、静岡県留学生支援ネットワークを引き継ぎ、留学生支援事業実施委員会として実施した。(11 教育機関及び静岡県、静岡県行政書士会)

留学生間や留学生と日本人学生との交流促進を図り、互いの異文化への理解を深めるため、交流バスツアーや、留学生支援サークル交流会議等を行った。

ア 交流バスツアー

年度	留学生	日本人学生	合計	回数	行き先 (内容)
H27	96	35	131	2	・防災と浴衣体験 (静岡市) ・富士山トレッキング、白糸の滝等
H28	31	20	51	1	掛川可睡齋他
H29	55	27	82	1	伊豆パノラマパーク他
H30	26	18	44	1	川根本町三ツ星キャンプ場他

イ 留学生支援サークル交流会議

年度	参加団体	開催回数	備考
H28	6	4	毎回 22 人前後が参加。バスツアーの検討や情報交換等
H29	6	4	毎回 20 人前後が参加。バスツアーの企画、準備等
H30	6	2	各回 3 大学 8 人が参加。バスツアーの準備、ワークショップ等

(2) 留学フェア

県内大学等への留学生受入促進を図るため、静岡県等と連携して国内外の留学フェアに参加し、県内大学等の情報を発信した。

ア 海外におけるフェア

年度	開催国等	日程	相談件数	資料配布	備考
H26	台湾（高雄・台北）	7月19・20日	65	300	JASSO日本留学フェア内
	インドネシア（ジャカルタ）	10月19日	100	200	JASSO日本留学フェア内
	タイ（バンコク）	11月22日	17	200	静岡県就職・留学フェア
H27	インドネシア（ジャカルタ）	11月15日	87	120	JASSO日本留学フェア内
H30	インドネシア（ジャカルタ）	9月30日	90	200	JASSO日本留学フェア内
	ベトナム（ホーチミン、ハノイ）	10月6・7日	100	200	JASSO日本留学フェア内

イ 国内におけるフェア

年度	開催場所	日程	相談件数	資料配布件数	備考
H28	ツインメッセ静岡	7月20日	15	36	日本語学校の生徒を主な対象とする進学相談会内
H29	ツインメッセ静岡	7月26日	59	89	

(3) グローバル人材育成事業

未来の静岡県を担うグローバル人材の育成を目指し、本県高等教育機関に在籍する日本人学生で、海外留学を希望する優秀な者に奨学金を給付し、海外留学を支援した。

年度	応募者数	合格者数	合格者在籍大学
H29	19	5	静岡大学、静岡県立大学2、静岡文化芸術大学、常葉大学
H30	7	6	静岡大学3、静岡県立大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校

5 学生支援

(1) 留学生就職支援事業

平成 27 年度から、静岡県留学生支援ネットワークを引き継ぎ、留学生支援事業実施委員会として実施した。(11 教育機関及び静岡県、静岡県行政書士会で組織)

留学生の県内企業への就労を支援するため、企業交流会、インターンシップ及び求人・求職マッチングの他、留学生就職支援講座、企業面談会等を委託により実施した。

平成 29 年度から、一部事業を文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」(静岡大学受託事業)の一部を再受託事業として実施した。

ア 企業交流会

年度	開催回数	参加学生数				参加企業
		留学生	日本人学生	在日外国人	合計	
H27	3	48	44	—	92	43
H28	3	91	48	—	139	45
H29	4	128	114	8	250	97
H30	4	165	66	4	235	68

イ インターンシップ及び求人・求職マッチング

(単位:人)

年度	項目	実施社数	実施人数	正社員採用	アルバイト採用
H27	インターンシップ	4	4		
	求人・求職マッチング	9	11	2	2
H28	インターンシップ	5	12		
	求人・求職マッチング	15	23	5	3
H29	インターンシップ	11	24		
	求人・求職マッチング	8	13	5	0
H30	インターンシップ	10	15		
	求人・求職マッチング	8	12	6(うち契約1)	2

ウ 留学生就職支援講座

*参加学生数 (単位:人)

年度	説明・OB体験	ビジネスマナー講座	企業訪問	合計
H27	10	14	19	43
H28	13	10	23	46
H29	42	7	27	76
H30	86	28	28	142

エ 企業面談会

年度	開催回数	参加学生数			参加企業
		留学生	日本人学生	合計	
H27	3	14	25	39	35
H28	3	18	44	62	35
H29	3	17	69	86	35
H30	3	14	66	80	25

(2) インターンシップ推進事業 ※静岡大学 COC⁺事業

参加大学：静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学・同短期大学部、東海大学短期大学部（その他産業界3）

ア 企業向け説明会

年度	開催回数	参加者数	開催場所
H27	1	39	静岡市
H28	3	112	沼津市・静岡市・浜松市
H29	3	135	沼津市・静岡市・浜松市
H30	3	78	沼津市・静岡市・浜松市

イ インターンシップマッチング会

年度	開催回数	参加者数	参加企業数	開催場所
H26	2	74	18	東部・中部
H27	5	327	74	静岡理工科大学 静岡大学静岡キャンパス 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡文化芸術大学
H28	7	743	129	静岡理工科大学 沼津工業高等専門学校 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡大学静岡キャンパス 沼津工業高等専門学校 静岡文化芸術大学
H29	7	569	140	沼津工業高等専門学校 静岡大学浜松キャンパス 沼津工業高等専門学校 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡大学浜松キャンパス 静岡大学静岡キャンパス 静岡文化芸術大学

年度	開催回数	参加者数	参加企業数	開催場所
H30	6	574	127	沼津工業高等専門学校 静岡文化芸術大学 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡草薙キャンパス 沼津工業高等専門学校 静岡大学静岡キャンパス

ウ 専門人材養成研修会

年度	テーマ	参加者数
H26	インターンシップとキャリア教育	21
H27	中長期インターンシップ・地域産業連携インターンシップ・有償型インターンシップ	74
H28	教育的効果の高いインターンシッププログラムの開発と実施	29
H29	大学と企業がともに考える教育的効果の高いインターンシッププログラム	45
H30	産学協働による教育的効果の高いインターンシップを目指して	50

エ 企業見学バスツアー（浜松市・浜松商工会議所と共催）

年度	回数	参加者数	参加企業数	テーマ
H28	2	21	6	機械・材料で活躍する仕事 電気・電子で活躍する仕事
H29	3	34	9	浜松を元気にする仕事 機械・材料で活躍する仕事 電気・電子で活躍する仕事
H30	4	40	8	地域に貢献する企業、浜松を元気にする企業浜松のものづくり企業 エンジニアの仕事 企画・販売・営業の仕事

オ ワークラリーしずおか

各学生はマッチング会にて希望企業との面談やマナー講座などの事前学習を経て、インターンシップに参加した。

年度	参加者数	参加企業数
H28	133	287
H29	123	244

6 機関交流

(1) 合同FD・SD研修会

大学職員の資質向上のため、合同でFD・SD研修を行った。

年度	内 容	場 所	参加者数
H27	大学職員 SD 研修会 講演「職場における『三遊間のゴロ』その対策を考 える～他大学等との職員との交流によって得られる もの」 講師：首都大学東京 教務課職員	静岡県立大学	43
H28	①講演「教育者としての持続可能な大学広報と学生 募集」、キャンパス見学、意見交換	静岡文化芸術大学	60
	②「地域と大学」 事例発表、キャンパス見学、意見交換	常葉大学静岡キャン パス水落校舎	42
H29	SD 研修企画委員会（委員 10 人、計 3 回開催）	—	—
	①「自己能力開発とモチベーション」 講演、意見交換	もくせい会館	42
	②「大学連携で静岡県からの人口流出を防ぐ～大学 進学前にできること」 ミニ講演、グループワーク、キャンパス見学、意見 交換	静岡産業大学磐田キ ャンパス	41
	全国の公立大学 SD フォーラム合宿に共催協力	静岡市	4
H30	SD 研修企画委員会（委員 12 人、計 1 回開催）	—	—
	①シンポジウム「静岡県の大学の将来像を探る」	グランシップ	179
	②ワークショップ「大学のリスクマネジメントを考 える～台風 24 号の被害をもとに～」	静岡英和学院大学	49
	県内大学で障害学生支援を担当する教職員で構成す る関係者会を支援 ・講演会「発達障害のある学生の理解と支援」 ・障害学生支援関係者会の開催（10 校、28 人）	静岡大学 静岡キャンパス 浜松キャンパス	93 52
	全国の公立大学 SD フォーラム合宿に共催協力	静岡市	3

*参考

西部地域連携事業（FD情報交換会）

年度	内 容	場 所	参加者数
H26	講演「教育課程の体系化」 講師：静岡理工科大学長 野口博	静岡文化芸術大学	22

年度	内 容	場 所	参加者数
H27	講演「FD 活動の取組み」 講師：静岡産業大学経営学部 教授 牧野好洋、 講師 熊王康宏	静岡産業大学	20
H28	講演「FD 活動の取組み～聖隷クリストファー大学の事例～」 講師：社会福祉学部社会福祉学科長 佐藤順子 看護学部助教 村松美恵 リハビリテーション学部准教授 吉本吉延	聖隷クリストファー大学	36
H29	講演「FD 活動の取組み」 講師：文化政策学部准教授 四方田雅史 文化政策学部教授 岡田建志 デザイン学部教授 中山定雄 文化政策学部教授 立入正之 文化政策学部准教授 高木邦子	静岡文化芸術大学	22
H30	講演「教育の内部質保証について」 講師：静岡大学大学教育センター准教授 須藤智	静岡大学浜松キャンパス	17

7 情報発信

(1) 地域研究成果発信事業

「ゼミ学生等地域貢献推進事業」及び「共同研究助成事業」等の成果を発表するための「ふじのくに地域・大学フォーラム」を開催した。

年度	内 容	日・場所	参加者数
H26	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会	平成 27 年 2 月 23 日 もくせい会館	160
H27	・ゼミ学生地域貢献推進事業の成果発表 ・学術研究助成採択事業の成果発表 ・ゼミ課題に対応したワークショップの開催 ・学生による静岡県カレッジサミット など	平成 28 年 2 月 27 日 静岡県立大学	200
H28	・ゼミ学生地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・短期集中互換授業の発表 ・留学生支援サークル交流会議等の発表 など	平成 29 年 2 月 18 日 静岡文化芸術大学	280
H29	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高大連携をテーマとする高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・若手地域イノベーター等によるパネルディスカッション など	平成 30 年 2 月 17 日 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎	350

年度	内 容	日・場所	参加者数
H30	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・静岡県ハイスクールボランティアアワードの受賞高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・海外留学コーナー など 	平成 31 年 2 月 16 日 常葉大学静岡草薙キャンパス	428

(2) 広報事業

チラシやホームページ、SNS 等により、コンソーシアムや県内大学についての情報発信を行った。

年度	内 容
H26	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム紹介チラシ (2,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2014-2015」(40,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ開設 (主催事業、構成校・行政機関・団体等からの依頼情報の掲載)
H27	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム紹介チラシ (2,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2015-2016」(20,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(2,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook ページの開設 (投稿 450 件)
H28	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・「ANNUAL REPORT 2015 (年次報告書)」(3,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2016-2017」(18,000 部、HP に電子ブック版の掲載) ・「静岡留学ガイドブック 2016」(1,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアル (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 500 件)
H29	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・「ANNUAL REPORT 2016 (年次報告書)」(3,000 部) ・コンソーシアム紹介チラシ ・「静岡キャンパスガイド 2017-2018」(20,000 部、HP に電子ブック版の掲載) ・「静岡留学ガイドブック 2017」(500 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 500 件) ・Twitter アカウント開設 (投稿 120 件)
H30	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要紹介チラシ 2017 (4,000 部) ・「静岡留学ガイドブック 2018」(500 部、HP に電子ブック版の掲載) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 130 件) ・Twitter (投稿 50 件)

第三章 コンソーシアムが果たすべき役割

これまでの5年間の活動の結果、「大学ネットワーク静岡」における大学間交流により、大学の協働に基盤づくりに関しては一定の進展が見られた。また、地方自治体の参加を促進することで、静岡県をはじめ静岡県内 22 の自治体が正会員として加入し、うち 11 市町は高等教育機関の所在しない市町であるなど、組織として確実に成長を遂げてきた。

これまでの5年間を「萌芽期」とし、この期間に育まれた基盤のもと、組織のミッションとして、次の事項を掲げることとする。

1 「静岡県（ふじのくに）ならではの」の教育の推進

静岡県の自然、環境、文化、産業など、地域の特性を踏まえた知識を習得し、愛着心を醸成し、優秀な人材の県内での活躍の基盤を作るために、大学間、行政、研究機関、企業、NPO などと協働による学習環境の整備を推進する。

2 地域で活躍する人の育成と地域活性化への貢献

高等教育機関での学びをもとに、静岡県内において、主体的・積極的に活躍するための環境づくりを行うとともに、県内の特性を踏まえた大学間の共同研究の推進と地域への還元により、地域イノベーションの推進役となる高等教育機関の活動を促進する。

3 国内外問わず、幅広く活躍できる人材の育成と環境づくり

留学制度を通じて、国内外の文化や産業を相互に学ぶとともに、海外からの留学生を通じて海外への関心を深めることを支援し、国際的に活躍できる人材の育成と地域への定着や世界をけん引できる研究の掘り起しを支援し、静岡県の国際化に寄与する。

4 県内高等教育機関の基盤強化

各教育機関がその強みを生かし、学生の確保とともに、効果的効率的な運営を支援する。

第IV章 静岡県の高等教育機関を取り巻く環境

1 静岡県の状況と課題

※「富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり 2018→2027」基本構想から抜粋

(1) 人口減少の進行・若年層の人口流出

- ・人口減少：(2007年)3,797千人→(2018年)3,670千人→(2030年推計)3,343千人
- ・社会移動における転出超過→特に若年者、中でも女性の転出超過が顕著

(解決策)東京圏等からの若い世代の人の流れを呼び込む取組が重要
魅力的な雇用の場の創出や起業を促進する環境整備



「静岡で働きたい、静岡に住みたい」と思えるような地域づくり

(2) 超高齢社会に対応した仕組みづくり

- ・2025年に団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に移行
→医療・介護に係る負担の増大や従事者の不足
- ・一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯の増加や認知症を患う高齢者の増加

(解決策)生涯を通じて積極的に健康づくり→年齢を重ねても元気に暮らせる期間の延長
医療・介護サービスの提供体制の充実や在宅医療と介護の連携の推進
生活支援体制の強化

(3) 力強い経済・産業の実現

- ・リーマンショック以降の製造業の再生・発展
- ・労働力の減少
- ・技術革新の急激な進展による産業構造の転換

(解決策)高度技術に対応できる産業人材の育成
成長が見込まれる新産業の創出

(4) 地震・津波など災害への万全の対応

- ・安心して暮らせる県土形成
- ・沿岸域の安全確保

(解決策)内陸・高台部に美しさと品格、活力のある地域の形成
沿岸・都市部における災害に強い都市機能の充実

(5) 時代の変化に対応した地域づくり

- ・人口減少や高齢化が急速に進む地域→地域活動の担い手、医療機関、交通手段等の減少
- ・社会資本や公共施設等の老朽化

(解決策)県と市町間、市町間の広域的な連携の強化
効果の高い施策を展開
国際的な交流人口の拡大→本県の魅力の向上や地域、経済の活性化に結びつける

2 国の高等教育行政の動向

(文部科学省) 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (抜粋)

中央教育審議会答申 (平成 30 年 11 月 26 日)

I 2040 年の展望と高等教育が目指すべき姿—学修者本位の教育への転換—

○2040 年に必要とされる人材と高等教育が目指すべき姿

予測不可能な時代を生きる人材像

- ・「普遍的な知識・理解」に合わせ、「汎用的技能」を文理横断的に身につける
- ・時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って 社会を改善していく資質を有する人材

学修者本位 の教育への転換

- ・何を学び、身につけることができたのか+個々人の学修成果の可視化
- ・学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性

○高等教育と社会の関係

「知識の共通基盤」：教育と研究を通じて、新たな社会・経済システムを提案、成果を還元

研究力の強化：多様で卓越した「知」はイノベーションの創出や科学技術の発展にも寄与

産業界との協力・連携：雇用の在り方や働き方改革と高等教育が提供する学びのマッチング

地域への貢献：「個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会」に貢献

II 教育研究体制—多様性と柔軟性の確保—

1 多様な学生

18 歳で入学する日本人を主な対象として想定する従来のモデルから脱却し、あらゆる世代、多国籍の学生が学ぶ リカレント教育、留学生交流、国際展開を充実

2 多様な教員

実務家、若手、女性、外国籍の様々な人材が活躍 教員が不断にその多様な教育研究活動を充実できる環境や仕組みが必要 (研修、業績評価等)

3 多様で柔軟な教育プログラム

文理横断、学修の幅を広げる教育、多様で柔軟な教育プログラムの充実
学位プログラムの実現、教育資源の共有化

4 多様性を受け止める柔軟なガバナンス等

大学内外の人的・物的リソースの効果的共有 「強み」を活かす連携・統合の仕組みの整備 (国立大学の一法人複数大学制、私立大学の連携・統合、撤退、大学等連携推進法人 (仮称)) 学外理事の登用

5 大学の多様な「強み」の強化

人材育成の観点から各機関の「強み」「特色」を明確化し、更に伸長

Ⅲ 教育の質の保証と情報公開—学びの質保証の再構築—

- 1 全学的な教学マネジメントの確立
- 2 学習成果の可視化と情報公表の促進
- 3 教育の質保証システムの確立

Ⅳ あらゆる世代が学ぶ「知の基盤」

- 1 将来の社会変化を見据えて、社会人、留学生を含めた「多様な価値観が集まるキャンパスの実現」
- 2 複数の高等教育機関と地方公共団体、産業界が各地域における将来像の議論や具体的な連携・交流等の方策を議論する
- 3 国公私の役割

Ⅴ 各高等教育機関の役割—多様な機関による多様な教育の提供

- 1 各学校種における特有の課題を検討
- 2 転入学や編入学などの各高等教育機関の間の接続を含めた、より多様なキャリアパスを実現

Ⅵ コストの可視化とあらゆるセクターからの支援の充実

民間からの投資や寄付等の支援（財源の多様化）

→教育・研究コストの可視化と高等教育全体の社会的・経済的効果を社会に提示

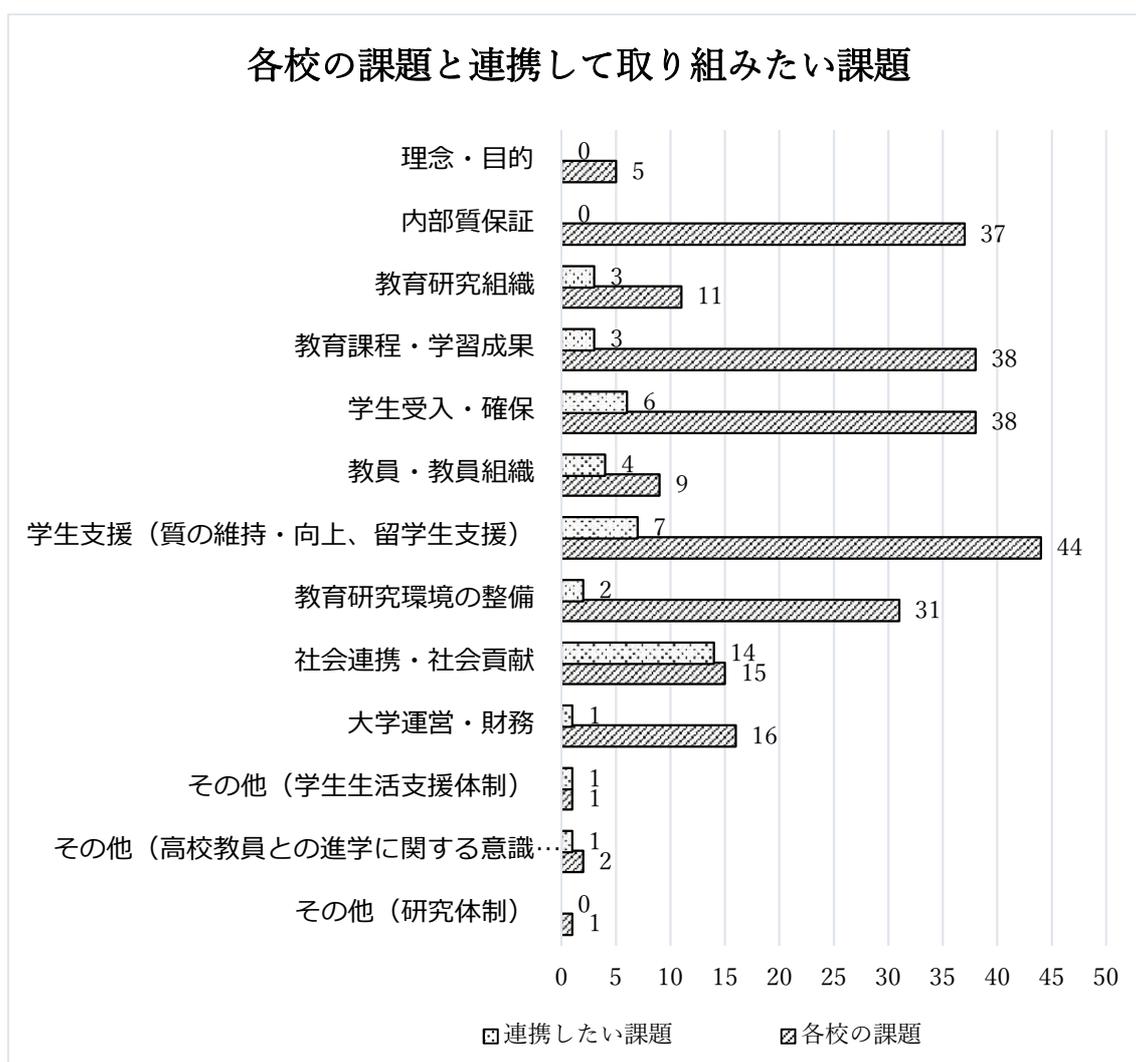
→社会の負担の理解（必要な投資を得られる気運の醸成）

第V章 各構成教育機関のコンソーシアムに対する期待と意見

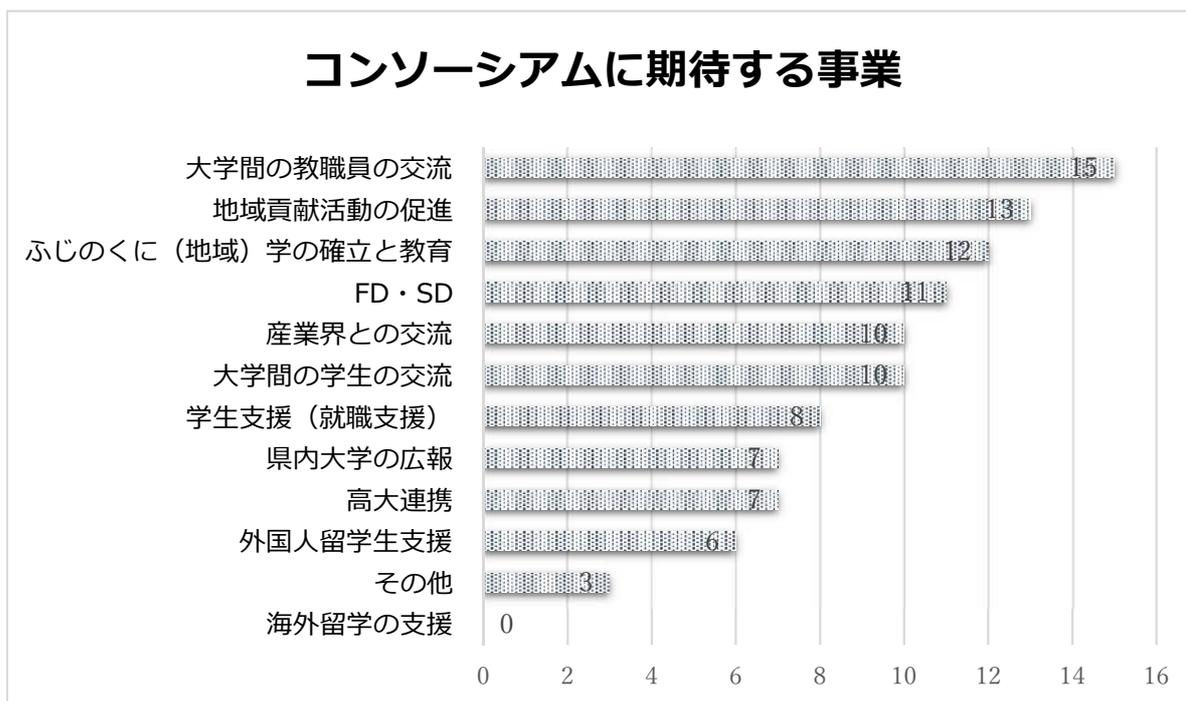
平成30年10月にコンソーシアムに対する構成教育機関の状況、意見等をアンケートとして実施した。(対象：21 高等教育機関 回答：18 高等教育機関 回答率：85.7%)

1 各教育機関の課題

各教育機関が課題として回答したものは、「学生支援」、「学生の受入・確保」、「教育課程・学習成果」、「内部質保証」の重要度が高い。(各教育機関が課題として回答した最大5つの課題を優先度が高い順に点数化してグラフとした。)



2 コンソーシアムに期待する事業



（コンソーシアムに対する意見・期待）

- ・類似事業が、大学コンソーシアム、県、大学等それぞれで実施され、事業の違いが不明瞭。各会員の類似事業との棲み分けを行い、事業に参画する意義を明確にしていきたい。
- ・少子化により、大学などへの進学者実数の減少とともに、静岡県は他県への大学の進学比率がまだ高いので、それぞれの大学の魅力を高めることが当面の定員充足にもつながると考える。遠くない将来、学部や大学自体の統廃合や経営の効率化（共同化）を検討していかざるを得ない。大学間の垣根を超えて、地域の高等教育のあり方をコンソーシアムで考える時になっている。
- ・実施した方がよいものをすべて実施することには無理がある。費用対効果の高い事業に集中的に取り組んでほしい。
- ・私学の建学の精神は種々であることから、私学に限定した情報支援を可能とするネットワーク組織の編成及び専門分野に特化した分科会の創設。
- ・地域全体で、若者が静岡県に定着したいと思えるような取組を期待したい。
- ・協力できる部分は少ないが、基本的に地域連携の機会があるのはよいこと。
- ・個々の大学がやっている似たように事業ではなく、コンソーシアムでしかやれない事業を傾注すべき。
- ・東部、西部にも配慮していきたい。
- ・静岡県が東西に長い（地理的特性の）ためか、静岡県西部からみると、大学コンソーシアムの活動がかなり遠い存在に感じられる。大学間の交流はもちろんであるが、地域間（県の東部・中部・西部）の交流を促進することができれば、学生はより静岡県に対する魅力を感じるのではないか。
- ・県内大学だけの大学職員合同研修は毎回同じ課題の共有で終始してしまうので、隣接県と協同で実施することで、大学教育が抱える課題等を広く共有でき、より効果が増すと考える。
- ・いろいろな困難な中、成果を上げていると思います。まずは継続すること。

個別取組について

大学連携講座

- ・各大学が独自に実施している講座やセミナーをコンソーシアムのホームページに掲載し、広く広報することでも大学の学術研究成果の地域還元になる。
- ・コンソーシアムの大学間連携講座は、コンソが企画し、年間を通して実施する講座にできないか。
- ・あるテーマをもとに、大学ごとに講座を開講して、一般の受講生（大学生を含む）が受講することで、各大学の特色や存在意義などを理解するよい機会である。一方、東西に長い静岡県の全ての大学で講座を受講するというのも無理があるように感じる。
- ・事業の委託に関しては、連続採択回数を制限し（例：2年連続まで）、新規に採択される可能性を高めてはどうか。
- ・本学は大学院しかないため連携講座は難しいかもしれない。
- ・二校、もしくは複数校での単位互換等のような閉じられた連携より、特定の静岡らしい講座（たとえば「富士山学」や「干物講座」等）を常設し、コンソーシアム加盟大学の学生の希望者や地域の方に受講して貰うくらいの開かれた緩やかな連携の方が長続きすると思う。
- ・県内諸大学の講座における連携協力は、双方の専門性を直接に知る機会になり大変重要と考える。

共同研究事業

- ・本県を特徴づける事象等に関する研究であるふじのくに学に関する研究や、本県の地域課題解決や活性のための研究といった本県のニーズに沿った研究テーマに対して研究助成金設定することで、関心のある県内の教員同士による共同研究がより進むこととなり、結果として本県への地域貢献に寄与し、本学の理念にも通ずるため、今後も継続を希望する。
- ・共同研究のテーマ設定は「ふじのくに学」「地域課題解決」の二つで適切。研究成果を広く県民に知ってもらうため、発表会を実施するようにしたい。
- ・共同研究費の中に事務費（管理経費）を設けることが必要。
- ・共同研究支援という意味では、研究プランがすでにある場合、ないよりはあった方が、研究者にとっては明らかにありがたい。
- ・採択の基準と尺度の公開、手続き（プロセス）の透明化（議事録公開等）
- ・各大学の特色を活かして共同研究を行うことは相乗効果が生まれる可能性もあり、有意義。
- ・連続採択回数を制限し（例：2年連続不可）、新規に採択される可能性を高めてはどうか。
- ・テーマ別になってからは、本学からは申請しにくくなった。
- ・助成対象者の条件の緩和. 同一大学内からの申請も検討いただきたい。
- ・個々の研究者の興味しだいで、共同研究が成立するのであれば、大学としては特に問題はない。
- ・基本的には、当該大学間で進める方が効率が良い。コンソーシアムで静岡県の教育機関が取り組むのに相応しい重点テーマを数テーマ提起して、できるだけ多くの方が参画して研究を進めるのも良いかも知れない。
- ・地域性に特色のある共同研究を支援するのが良いのではないかと。
- ・採択校に偏りがあり、審査方法、審査結果も開示されていないので、選定過程が不透明。
- ・県の複数大学がコンソーシアムに関わるテーマで共同研究を実施し、その成果を還元する意義は大きい。テーマによっては、呼びかけて参加したい。

ゼミ学生等地域貢献推進事業

- ・本学の教育理念の実現に向け、本事業は、複数の手段で本学教員及び学生が地域に貢献することが可能となるため、今後も継続を希望する。
- ・コンソーシアムが自治体や団体の課題解決事業を集約し、提案した自治体などから活動経費の負担を得て、事業実施ができるように工夫したい。
- ・コンソーシアムで、自治体などから解決したい課題の情報提供を受け、一覧をHP等に掲載し、協働のマッチングを行う。
- ・地域連携という意味において重要。複数大学のゼミ生と一緒に本事業に参画できると静岡地域の大きな特色となる。
- ・学生の主体的な地域貢献や、学生から目の覚めるような新しいアイデアが出てくることが期待できるため、一層の充実を図るべきである。
- ・指導教員の研究テーマそのもの下請的な研究が一部見られる。学生の自主性が明確な活動に限定し、1件あたりの金額を増やしてはどうか。
- ・連続採択回数を制限し(例：2年連続まで)、新規に採択される可能性を高めてはどうか。
- ・基本的に各大学で進めるのが良いと考えます。地理的に近い数校で連携するのを妨げるものではありません
- ・各大学一律に選定されているところは良いと感じている。
- ・全国的にも、諸大学で立地地域への学生の就職率を上げることが課題となっている今、学生が地元地域の活性化に通じる研究等を行い、将来につなげていく課題は大きいと思う。
- ・課題としては、事業の採択時期から報告まで期間が短いこともあり、助成金の執行が実質的に可能な課題に限定されるおそれがある。また、ゼミ学生が学部4年生の場合は10月以降に卒論執筆へ注力するため、従事したくても現実的には難しいので、交付決定及び助成金の概算払いの時期を早める、実績報告書の提出期限を遅らせる等の改善を実施することで、大学もより円滑に事業を実施できる。
- ・間接経費を含めてほしい。

高大連携事業

(意見)

- ・本学でも同様の事業を実施しているが、高校側から、本来であればその枠組みで依頼すべきものや条件等が合致しないものを、大学コンソーシアムが実施する「高大連携出張講座」を通じて依頼しており、学内で対応に苦慮する事案が発生している。棲み分けが困難なら当該事業の廃止を御検討願う。
- ・現在実施している高大連携出前出張事業は、高校生に静岡に住むこと、静岡で暮らしていること、静岡で働くこと、静岡で学ぶことのすばらしさを講座の柱としていることは、他県の大学に進学しても静岡に帰ってきたくなる気持ちを持ち続けるようにするために必要なこと。今後もテーマについては、静岡の人材育成につながるテーマにしていきたい。
- ・教育委員会がコンソーシアムの正会員となったので、教育委員会が高校や中学校に働きかけ、「しずおか学」を教える連携講座をより多く開催できるよう仕組みづくりが求められる。割り当てをコンソーシアムがするようなシステムにしたい。
- ・高大連携推進事業の効果がどの程度のものか、検証の必要がある。
- ・本学では、模擬授業の提供を無償で行っており、コンソーシアムを通じての出前講座もあると手続きが煩雑。今年、コンソーシアムを通じて依頼があり、可能であるという返事をしたにも関わらず、事業として認められず、結局、直接高校より申込がありお引き受けした案件もあった。

- ・高校への出張講座について、対象として静岡県（自然、文化、社会）を取り上げる内容に偏らず、県内諸大学にはないと高校生から誤解されがちな専門分野（学部・学科）あるいは県内諸大学では不十分と誤解されがちな専門分野（学部・学科）を取り上げて、県内諸大学に対する高校生の注目度を強めてはどうか。コンソーシアムが現状以上に主導的に企画してよいのではないか。
- ・職場体験的な取り組みは評価できる。
- ・各大学への発信も積極的におこなっていただきたい。
- ・大変良いと思います。ともかく実績を積み上げ、慣れていくこと、新たなニーズを発掘することが大切だと思う。

（提案）

- ・県内の高校1・2年生を対象とした、大学で学ぶことができる様々な学問分野に関する講義の実施。
 ※ 愛知県東三河地域の「ラーニングフェスタ」は2,000名以上の高校生が集まり、各自が希望する複数の講座を聴講することで、進路選択の参考にしている。講義は各大学の教員により、高校生にも分かりやすい身近なテーマで講義をしている。
- ・高校間と大学間の連携がとれるような、複数の高校と大学が合同で行う研修会を企画してほしい。
- ・合同高校教員向け学校説明会。高校教員が各大学の説明会にそれぞれ別日程で参加するのは負担なので、一括で各大学の説明を聞けるような会を設けてほしい。

留学関係

（日本→海外）

- ・交通費支給を含めた留学報告会の開催
- ・補助金・危機管理セミナーの実施・語学力向上セミナーなど

（海外→日本）

- ・東南アジアの海外からの留学生の多くが求めるインターンシップ留学を県・産業界とも連携して実施する。
- ・留学生会館構想の実現
- ・日本での就職支援と留学生間の交流促進
- ・留学生の奨学金に関する情報収集
- ・住居の確保
- ・他大学の留学生との留学生間交流の活性化と情報交換。
- ・貴コンソーシアム留学支援事業の案内
- ・本学留学生支援サークル宛のイベント案内送付

学生支援・就職支援

（学生支援）

- ・コンソーシアムとして学生間の交流促進に取り組めないか。特に、地域課題に対する複数大学の学生による解決の取組を支援いただきたい。
- ・コンソーシアム会員の各種イベントの日程等の取りまとめ
- ・学生の生きる力を育むという観点から、学生の活動への支援が重要である。一部の学生であっても、短い時間の中でも内容の充実した活動につながるのであればそのような機会があるとよい。

（就職支援）

- ・留学生、障害のある学生との企業マッチングの機会提供

- ・静岡県内の福祉を活性化するために、高等学校・短期大学において、より多くの方に福祉にふれる機会が必要なため、福祉職（保育・介護等）について説明会や職場体験を実施し、福祉に関する知識や関心を深めることを目的としたイベント開催を期待する。
- ・インターンシップ先の開拓に多くの時間と労力がかかる。
- ・産業界との協定を契機に、インターンシップ受け入れ企業の情報提供が得られるようになるという。
- ・小企業が数多くあるが、従業員が少ない企業はインターンシップ学生の受け入れが困難な企業の人材確保策の一つとなるよう、インターンシップの受け入れに関する講習会の実施を希望したい。
- ・キャリア・就職イベントに参加しやすい仕掛け作り（特に企業側において参加希望社員が参加しやすいようにコンソーシアムから企業へ依頼、または貢献している企業の公表や表彰を行い、イベントの活性化につなげていく。）
- ・福祉関係の組織との意見交換会を実施してほしい。
- ・企業と大学との懇話会、情報交換会。

広 報

(ホームページに掲載してほしい事項)

- ・シンポジウム等、大学で実施するイベントの情報
 - ・高校生が大学を検索しやすいよう、大学の所在地、名前から検索するページに加え、専門別にも検索できるようにしたい。
 - ・海外の留学希望学生に静岡の大学を選んでもらえるように、英語、韓国語、中国語のページを加える。併せて、静岡でのたのしい大学生活が頭に描けるように、静岡の特徴や生活費、環境、おいしい食べ物などについての情報も、観光サイトや生活文化サイトとリンクしたい。
 - ・大学の基本データが一括して掲載できるとよいと考えます。
 - ・卒業生の活躍を伝えてほしい。
 - ・「イベント・シンポジウム」「公開講座」「室内楽演奏会」など一年を通じてコンスタントに実施して事業をタイムリーに公開することで、本学のイベントの告知のが増えるだけでなく、他大学のイベントも見ることになるので、他大学の動向や特色を把握することができ、他大学との差別化についても考察することができると思っている。
 - ・リンクがあれば十分。
 - ・中学生、高校生へのキャリア支援として、各大学を卒業し、様々な職種で活躍している卒業生の紹介など。
 - ・各大学が開催し学外へ公開可能な講演会や研修会などの情報の共有。
 - ・公開講座のイベント情報などを掲載してほしい。
 - ・セキュリティ対策は怠りなくお願いします。
 - ・目的別のリンク集（例：各校のインターンシップ窓口、産学連携窓口など）
 - ・クラブの参加・主催行事（コンサートなど）の紹介リンク。ただし、管理を誰が行うのかは問題。
 - ・市民向け公開講座情報
 - ・オープンキャンパスの日程一覧
 - ・各大学の学科情報、在学生の声
 - ・SNS へのリンク
 - ・大学説明会情報など
- (コンソーシアムの広報に関する提案)
- ・隣接県において『静岡県の大学特集』等の広告記事を掲載
 - ・隣接県高校生の静岡県キャンパスツアーの実施”

- 多くの若者はスマホで情報検索をする。スマホでリンクされても見やすいような画面構成（ホームページ）にする。
- 当面は、Web 上での対応で十分ではないでしょうか。むしろ大切なのはその中身（ソフト）の充実ですので、各大学の取組内容に期待するところです。
- 広報の効果測定を実施し、改善につなげてほしい。
- 教職員へ「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の事業の周知が不十分であると考えるが、その学内向けの広報ツールの提供を望む（デジタルパンフレットなど）。
- ホームページによる情報発信で十分。
- SNS については、学生や留学生目線での活用が有効ではないか。大学の公式な情報公開や共有は HP で一括行う。
- 各校の行事情報の発信に使えるかもしれません。
- 県庁や市のアカウントだと特定の大学に偏った情報は掲載できないと伺ったのですが、コンソーシアムも同様なのでしょうか。もし可能であれば、SNS での発信の協力、RT などお願いします。

第Ⅵ章 今後の取組方針

法人設立から5年を経過し、各大学が連携しながら各種事業を実施することにより、大学間の顔の見える関係づくりができてきた。また、県内自治体会員も平成30年度には静岡県を含め22団体と拡大してきた。また、加盟する高等教育機関も大学、短期大学（部）、大学院大学、専門高等学校と各種高等教育機関種が揃い、平成32年度には、新たに静岡県立農林環境専門職大学（設置申請中）が開設され、学校教育法第一条に定められた高等教育機関の各校種が揃う予定である。今後は、各加盟機関が自らの機関の強みを生かし、コンソーシアムをプラットフォームとして積極的に活用できる基盤整備を進めていく。事業の推進に当たっては、各会員組織との連携を密にし、各会員組織が有するリソースの活用及び共有に重点を置く。

また、若年人口の減少、大学教育の変革、働き方の変化など高等教育を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、行政、産業界などと連携し、静岡県の産業、暮らしを支える人材像を明確にしつつ事業を進める。

「ふじのくに学」については、短期集中単位互換授業、共同研究、大学連携講座、高大連携出張講座の実施により、一定の成果をあげている。フィールドワーク型の単位互換授業や研究の実績を踏まえ、「ふじのくに学」を再評価し、併せて今後の「ふじのくに学」の組立、実施方法について検討する。また、県内の若年者の県内への定着に結び付くよう大学連携講座、高大連携出張講座等のテーマ設定や実施に取り組む。併せて、構成大学においても、地域関連科目が12教育機関で延べ129科目が開設されていることから、これらを連携型単位互換科目として実施できるよう体系化に努める。

国際化の進展に伴い、留学生の受入促進や就職促進等、正規学生として留学している学生への支援に合わせ、交換留学や語学留学など短期留学生が参加できる交流事業の充実を図る必要がある。

構成教育機関の教育研究の向上、運営基盤の強化のため、教育機関が抱える課題に即した教職員研修を実施していく。

これらの事業を推進するためには、各構成機関の取組を把握し、重複しないよう調整する必要がある。各構成機関との連携を綿密にするとともに、既存の取組の活用や事業の統廃合など、より効果的な事業実施に努めていく。

あわせて、新規正会員（市町）の加入、準会員としての企業の参加を呼び掛けるとともに、活用できる助成事業などに積極的に取り込むこととする。

上記の方向性を踏まえ、平成 31 年度から平成 35 年度は、次の 3 つの課題を重点課題とし、重点的に取り組む。

第 2 期の重点目標

(1) 「ふじのくに学」の体系化

平成 27 年から単位互換授業、共同研究、大学連携講座、高大連携出張講座を通じて進めてきた「ふじのくに学」について、ワーキングチームを立ち上げて体系化し、コンソーシアム事業における位置づけを明確にする。また、高大連携推進事業、大学連携講座などを活用し、小中学生を含む若い世代を対象にした取組を進める。

(関係事業) 単位互換授業、大学連携講座、高大連携事業、共同研究

(2) 産業界等との協働体制の構築

平成 30 年度締結した経済 4 団体（一般社団法人静岡県経営者協会・静岡県商工会議所連合会・静岡県商工会連合会・静岡県中小企業団体中央会）との包括連携協定に基づき、相互理解を深め、協働した教育・研究体制を推進する。

また、各関係士業会、金融機関等との連携体制も視野に入れ、事業等の効率的・効果的な推進に当たって、適切な団体等との連携が取れる体制づくりを目指す。

(関係事業) 単位互換授業、大学連携講座、共同研究、就職支援、留学生就職支援

(3) 体系的・効果的な事業推進体制の整備

各会員高等教育機関が、それぞれの強みを生かしながら主体的にコンソーシアム事業に参画し、市町、産業界等と連携できるような事業体制を構築する。また、事務局体制及び財源についても、随時、見直し、効果的な体制とする。

事業分野別 事業実施計画

各事業の実施に当たっては、事業相互を関連させながら、重点目標に向かって、効率的に事業を実施する。

1 教育連携

(単位互換授業)

- ・コンソーシアムが実施する「ふじのくに学」について、体系化するとともに、各大学が開設する既存授業を単位互換協定校に提供する「連携型」の位置づけを明確にし、専門科目も含め、拡大する（継続）
- ・他地域の大学コンソーシアム等との広域単位互換を推進し、学生の学びの機会の拡大を図る（新規）
- ・産業界と連携した冠講座の実施について具体的な実施方法を構築する（検討）
- ・遠隔授業やWebを活用した授業等、通信システムを利用した単位互換授業や、電子教材を活用した個別履修が可能な授業の実施に関しては、プラットフォーム形成推進委員会と調整しながら進めるとともに、放送大学との情報交換に努めていく（新規）

(高大連携推進事業)

- ・高大連携出張講座に関しては、コンソーシアムとしての特色を明確にし、各大学が実施する高校への出前講座との差別化を図る（見直し）
- ・高校生の大学での学びのイメージづくりを支援するため、大学（院）生を高等学校に派遣して、より身近な立場から大学生活を説明するとともに相談に対応する（新規）

2 共同研究

- ・共同研究に関しては、その在り方を根本的に見直し、助成対象研究の定義、助成期間、「共同」の定義などを明確にする（見直し）

検討事項

対象とする研究：ふじのくに学…ふじのくに学検討会での検討

地域課題の定義

継続助成の在り方

大学教育に係る研究の適否（遠隔授業、アクション・ラーニング、学修成果の評価、大学ガバナンスなど）

企業等との共同研究の取扱い

3 地域貢献

(大学連携講座)

- ・リカレント教育や社会教育など、対象者ニーズに合わせた講座を開催する（改善）
- ・高等教育機関が所在しない市町での開催を拡大する（改善）
- ・若年層（小中学生）への「ふじのくに学」の普及を図る（改善）

（ゼミ学生等地域貢献推進事業）

- ・事業実施方法の見直し（改善）
 - 類似する他団体の助成事業との差別化を図る（マッチング方法・助成期間など）
- ・準会員（企業）の参加の方法について検討し、協働体制の確立に努める（改善）

4 国際交流

（留学生交流事業）

- ・現行の留学生交流バスツアーに加えて、産業界、各市町との協働により、留学生と地域住民等との交流機会の拡大に努める（新規）

（留学生の確保機会の拡大）

- ・海外における日本留学フェア等に参画し、県内大学の留学生確保を支援する（継続）
- ・県内等の日本語学校を訪問し、静岡県内の大学等の魅力をPRし、進学の動機づけを図る（新規）

（ふじのくにグローバル人材育成事業）

- ・国助成終了後の事業継続の方法について検討する（見直し）

5 学生支援

（留学生就職支援事業）

- ・留学生と企業交流会の開催、企業見学、インターンシップ等を通じて、留学生の県内就職を促進する（継続）
- ・留学生の県内企業の現状理解の促進、ビジネスマナー等を身につけ、実践的な就職支援を行う（継続）
- ・県内の外国人就労者（留学生OB）や若手従業員等との交流を図り、県内就職への動機づけを図る（改善）

（インターンシップ推進事業）

- ・国助成終了後の事業継続の方法について検討する（見直し）

（その他）

- ・各教育機関の枠を超えた学生の地域貢献活動への支援について検討する（新規）

6 機関交流

(合同FD・SD研修)

- ・数理データサイエンス教育や地域人材育成など、大学の将来を見据えたテーマを選定した研修を展開する（改善）
- ・各大学が開催するFD・SD研修の大学間相互活用について検討する（改善）

7 情報発信

- ・既存の組織概要と事業実績を掲載した総合パンフレットを作成する（改善）
- ・県内大学の情報(学祭、入試等)の入口として、ホームページを再構成する（改善）
- ・facebook、twitterを活用した情報発信を行う（継続）

8 施設共用

- ・プラットフォーム形成推進委員会の活動を中心に、その可能性を検討する（新規）

9 組織・運営体制

- ・理事等への担当制の導入を図る（改善）
- ・学生、教員、社会人等、誰もが静岡県 of 将来について意見交換できるフリートークの場づくり（仮称：ふじのくに将来構想ミーティング）の設置を検討する（新規）